

△ 店主が綴る、エッセイのようなもの。

くちびるに珈琲を。

the sun in mind, the coffee to lips.

マクトウーヴだよ人生は

以前紹介した小説「アルケミスト」に出てくる、マクトウーヴという言葉アラビア語で直訳すると「書かれている」という意味なのだそうですが語の成り立ちは大いなる手によってすでに書かれているということ

ネイティブインディアンの格言などでも同じような意味の言葉があるんですが、日本にも同じような言葉があつて

「お務め」や「お役目」がしつくりくるなあと僕は思っているんです

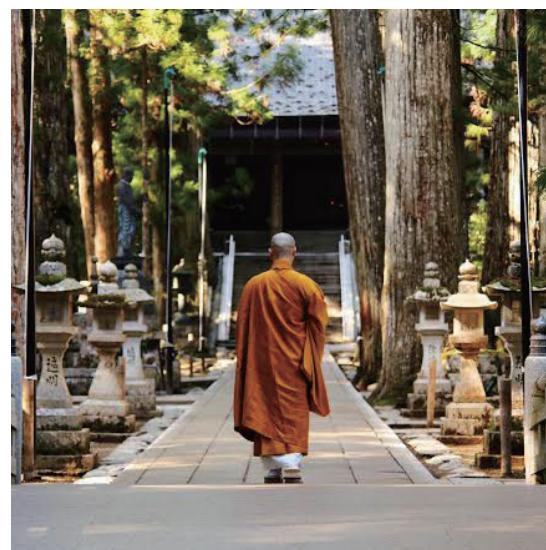
駅前に店を構えた喫茶店の3代目として

若い頃から「いつかは店のことだけじゃなく、地元や地域のことにも目を向ける日が来るんだろうな」と感じていました

3年後、僕は45歳になり、店を始めて20年が経つことになります

人生に「あらすじ」や「台本」があるのかどうかわかりませんが最近は「大きな流れを読む」ようなことができるようになつてきて齡を重ねるごとに「自分の物語」を楽しめている気がします

それは
ページを捲りながら読み進めていく物語のように
あらかじめ「書かれている」のかもしれませんね



この3年を有意義で意味のある、「自分たちの物語」にしたい。



Magazine for HATTORI City Boys & Girls

2021 OCTOBER Issue.07



僕の好きな

言葉 僕のことを好きじゃない誰かのことでよくよする時間はないんだ。
僕は、僕を大好きでしてくれる人を大好きでいるのに忙しすぎるから。

スヌーピー

□ 今月の一冊

あり方で生きる

大久保 寛司

ハウツーやノウハウなど効率よく生きる「やり方」は世の中にたくさん出回っていますが、もっと根源的・本質的な人としての「あり方」について丁寧に綴られた本書は、成熟社会を生きるこれからの方々に必要な智慧が50の言葉で纏められています。当たり前のことをハッと気付かてくれる1冊です。



本と音とお店のはなし。

□ 僕らの町のお店

ありすキッチンれすとらん

豊中市蛍池東町2-4-5 ワイエムビル1階

☎ 06-6151-3016

【営業日時】9時～17時(※現在時間短縮中) 【定休日】日曜、月曜

ライブ開催情報はSNSなどで告知

閉店の危機を乗り越え、再スタートを果たした蛍池駅から徒歩4分の自然農法食材にこだわったレストラン。店名の由来にもなった「アリス」好きはもちろん、ギターやレコードが飾られた

店内はゆったりした座席とテーブルで寛げる。カフェやレストラン使いのほか、週末のライブ開催や会場レンタル、様々な用途での持ち込み企画も相談に乗ってくれます。



上芝英司 | 1979年服部生まれ、喫茶ビーコック3代目店主。喫茶と文筆に勤しむA型乙女座ヒゲメガネ。企画や作文、図画工作が得意。

PEACOCK64



一茶

<https://peacock64.com>

PEACOCK64 服部



for HATTORI City Boys & Girls

変わる時こそ、
変える時

地元の人ならわりとご存知なんだろけど、服部天神駅前(東側)、ビーコックのある方です)が再整備されてタクシー・ロータリーができるんですね。それこそこの話は昭和40年代からあった話で、50年越しにまとまつたってことなんだけど。

今の計画では3年後の「2024年」に完成するとのことで、頻繁に測量している再整備にかかる個店さんとの協議が行われています。でもこれって、最近になって話題が上がってきた、最近になって話題が上がってきたが、実は2年ほど前にはもうほぼ決定していたんです。

2年前に駅前が再整備されるって聞いた時に、僕が子供の頃に見ていた原風景が失われるんだなあと思ったんです。僕のおじいさんが喫茶ビーコックを始めたのが昭和39年。「服部第1世代」といわれる方々ってもう90歳前後なんですね。昭和20年代から現在までの写真を解説できるのはほんとに第1世代の方々だったので、開催している間はたくさんの方にお話を伺い、思い出や情報を共有させていただきました。

神社での出来事や祭の思い出、今は無きお店のエピソードや嫁いでこられた時の話など、ほんと人情味のあるおしゃべりであらためて服部を好きになつたんです。

あれから2年、再整備に向けた具体的な工期や駅前のレイアウトなど、行政からの説明会や資料などを受けました。

利便性が高まって新しいマンショングできたり、時代や世代が変わることタイミングだからこそ、もう一度「僕らにとっての服部」を編み直す良い機会になると僕は思っています。

でもその「安全・便利」を高めながらも「愛着・意味合い」を深めていくような3年になればいいなと思うし、これって地元愛が強まつたり自治モトマチ展」っていう歴史写真展を開催しました。昭和20年代から現在までの写真を解説できるのはほんとに第1世代の方々だったので、開催している間はたくさんの方にお話を伺い、思い出や情報を共有させていただきました。

公開資料にケチをつけるのではなく、僕らが感じている地元への愛着や意味合いを言葉にして伝え合つたり、様々な立場からひとつテーマにアプローチしたりとできることはまだあります。

それでも「安全・便利」を高めながらも「愛着・意味合い」を深めていくような3年になればいいなと思うし、これって地元愛が強まつたり自治モトマチ展」っていう歴史写真展を開催は必要だし、現に駅前は水害や入り乱れる電線の問題もあります。